

授業科目名	が ん 看 護			担当教員	西山 陽子	
開講年次	2 年前期	セメスター	3		時間数(単位数)	15 (1)
必修選択	必修	授業形態	講義		使用教室	
授業の目的	さまざまな健康段階にあるがん患者の身体機能、心理・社会的機能の特徴と健康問題について理解する。					
到達目標	1. 臨床経過を踏まえ病期ごとの症状や治療に伴う身体的、心理・社会的影響と健康問題について説明できる。 2. がんサバイバーが、治療の効果を促進し、有害事象への対策を効果的に実施するための療養支援について説明できる。 3. がん医療の変化と課題について説明できる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	この科目では、がんサバイバーの経験する経過や治療に伴い出現する健康問題に対し、サバイバーへのセルフマネジメント支援の視点を中心に学ぶ。特徴的な病態や治療の既存の知識を生かして看護を探究する過程で「看護の専門性を探究する力」を育む。また、自己学習をグループ学習へ生かす中で「自己教育力」を向上する。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
		○			◎	
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	1. オリエンテーション 2. がんの病態 3. 臨床経過 4. がん患者の苦痛への看護 5. がん治療における看護の重要性	講義	予習：テキスト P44 ～ 81 についてまとめる。 * 講義終了時にテキスト P88 ゼミナールの中からテストを行う。 復習：テストの復習を行う。		1 時間	西山
2	がん治療を受ける人への看護 1. がん治療の概要 2. 手術療法を受ける人への看護 ・術前から術後の症状管理 ・合併症予防 ・機能障害や後遺症へのセルフケア支援	講義	予習：テキスト P215 ～ 231 についてまとめる。この範囲から講義開始時にテストを実施する。内容の理解のため、P136 ～ 152 についてもよく読む。 復習：講義内容を振り返り、テストの復習を行う。		1 時間	西山
3	がん治療を受ける人への看護 ・がん薬物療法、放射線療法を受ける人への看護 課題についての自己学習をグループ内で説明、薬物療法、放射線療法についてまとめる。	演習 (AL)	予習：テーマごとの課題を自己学習したものを持参する。		2 時間	西山
4	がん治療を受ける人への看護 ・がん薬物療法、放射線療法を受ける人への看護 グループでまとめたものを発表する。	演習 (発表)	復習：グループワークで担当していない箇所を中心に学習してまとめる。		2 時間	西山

5	がんと共に生きる人への看護 1. がん薬物療法、放射線療法を受ける人への看護のフィードバックと解説 2. 暴露予防について	講義	予習：グループワークで担当していない箇所を中心に学習する。 復習：講義内容から自己学習へ加筆する。	1 時間	西山
6	がんと共に生きる人への看護 1. 肺がんと共に生きる方への看護 2. 乳がんと共に生きる方への看護	講義	予習：肺がん患者の看護、乳がん患者の看護について参考資料を活用し学修する。 * 講義終了時にテストを行う。 復習：テストの復習を行う。	2 時間	西山
7	がんと共に生きる人への看護 1. 胃がんと共に生きる方への看護 2. 造血器腫瘍と共に生きる方への看護	講義	予習：胃がん患者の看護、テキスト P262 より造血幹細胞移植と看護の学習を行う。 * 講義終了時にテストを行う。 復習：テストの復習を行う。	2 時間	西山
8	がんと共に生きる人への看護 1. がん医療の現在と看護 2. まとめ 治療を受けるサバイバーへの支援のポイントを振り返る。	講義	予習：テキスト P262 ～ 276 を読んでおく。 復習：講義全体を振り返り、要点をまとめる。	1 時間	西山
先行履修科目					
テキスト		小松浩子他：系統看護学講座 別巻 がん看護学 第 2 版. 医学書院, 2017.			
参考文献		大西和子他：がん看護学 臨床に生かすがん看護の基礎と実践 初版2刷 2014. 久米恵江他：がん放射線療法ケアガイド 病棟・外来・治療室で行うアセスメントと患者サポート 新訂版・中山書店, 2013. 川村雅文他：系統看護学講座 専門 2 成人看護学 [2] 呼吸器 第 14 版. 医学書院, 2015. 松田明子他：系統看護学講座 専門 2 成人看護学 [5] 消化器 第 14 版. 医学書院, 2015. 末岡浩他：系統看護学講座 専門 2 成人看護学 [9] 女性生殖器 第 14 版. 医学書院, 2016. 飯野京子他：系統看護学講座 成人看護学 [4] 血液・造血器 第 14 版. 医学書院, 2015.			
評価方法		発表（10%）、課題への取り組み（40%）、定期試験（50%）			
教員等の実務経験		がん患者への看護を臨床で実践した経験がある教員が担当する。			
メッセージ		がんは日本人の死因の第 1 位ですが、治療の発展は著しく、がんとともに生きる方は増加しています。しかし、治療の中には深刻な有害事象を伴うものも多く、がんサバイバーは、身体的および心理・社会的にも大きな影響を受けます。がんの治療を受ける方がより良い療養生活を送ることを支えるにはどう看護したらよいか考えていきましょう。			